

1. 国家の起源としては、農耕革命説よりも宗教起源説が有力である。×
2. 近代国家の定義には、立憲主義の原則が含まれる。×
3. 国民国家は想像の共同体と呼ばれることがある。○
4. ロックとホブズは、社会契約説による国家の説明と言う点で共通している。○
5. ロックは、信託による政府という考え方を打ち立て、革命権を主張した。○
6. 政治権力の 1 つの特質は、紛争の解決を通じて自己の権力の拡大そのものが目指されることがあると言う点である。○
7. 政治的自由主義の重要な核心は、個人の自由を国家権力の抑圧から保護することである。○
8. 権力と権限は事実上いつも同じことを意味するが、権威とは異なる面がある。×
9. 古典的な自由主義の 1 つの大きな軸として、宗教的な事柄に対する国家の中立性の原則がある。○
10. 平等主義的な自由主義は、リバタリアン自由主義とも呼ばれている。×
11. ルソーが提唱した人民主権論は、立憲主義と近いが、フランス革命当時は様々な問題を生じさせた。×
12. ポピュリズムには、周辺の立場にあり、抑圧された人々の政治参加を促進するという面も指摘されてきた。○
13. 大衆民主主義について、W.リップマンは「ステレオタイプ」の問題を論じたが、他方で一定の理解を示した。×
14. 全体主義的な政治体制は、社会における監視テクノロジーの発達とも関係した面がある。○
15. 平等主義的な自由主義は、20 世紀の福祉論と深い関係がある。○
16. 民主主義とリーダーシップについてのシュンペーターの議論とダールの考え方は、かなり大きく異なっている。○
17. ポピュリズムとは、下からの抵抗運動で、伝統的な右派・左派の次元とは異なる面が大きい。○
18. 前 4 世紀後半のアテナイの政治の仕組みでは、人民総会が大きな役割をなっていた。○
19. 前 4 世紀後半のアテナイでの政治の仕組みは、下層平民の政治参加が実現したが、依然として女性や外国人は除外されていた。○
20. 共和政ローマでは、前 2 世紀のポエニ戦争での勝利を背景として護民官の制度が成立した。×
21. 消極的自由主義の概念に密接に関連した中世以降の議会の発生と展開は、基本的にギリシア時代の経験からは断絶していた。○
22. 人間社会には政治現象はつきものであり、政治の営みには、公共財の創出という面のみが重要である。×
23. 中世の封建国家の 1 つの重要な特徴は、国境の流動性が大きかったことである。○
24. 17 世紀中頃には、30 年戦争の終結とともに、ウェストファリア条約によって今日の国際関係の基礎とされる仕組みが形成された。○
25. 現実主義を代表するマキュアベリの政治思想では、有利な決定を求める党争の面が大きい。×
26. E.ホブズボームは、19 世紀について「長い 19 世紀」という考え方を提示し、その中を 3 つの時代に区分して議論した。○
27. フランス 2 月革命やドイツ 3 月革命の後、いわゆるウィーン体制が築かれた。×
28. 国民・ネーションについて、「想像の共同体」という考え方を提示した B.アンダーソンは、印刷技術の普及に注目した議論を展開した。○
29. 日本の国民国家としての近代化は、ヨーロッパの主要国に比べると決定的に遅れていた。×
30. 第 1 次世界大戦の惨劇とその後の国際協調体制の不十分さを経て第 2 次世界大戦が起こり、非戦闘員も含めて記録的な戦死者が発生した。○

31. 1066 年のノルマン・コンクエストによってアングロ・サクソン社会の伝統はほぼ途絶え、大陸から導入された封建制による統治体制となった。×
32. イングランド近世の統治システムの骨格は、**King in Parliament** と呼ばれる体制で、その中では国王が中心的な役割を果たし、いわゆる議会勢力は排除されていた。×
33. 16 世紀前半のイングランドにおいて、ヘンリー 8 世が主導した国政の改革のうち、議会制定法を通じて推進されたものにイングランド国教会の樹立や修道院の解散があった。○
34. 名誉革命の結果発布された権利の章典は、この革命に際してオレンジ公ウィリアムとメアリーとが起草したもので、イギリスの統治体制の性格づけに関して後々まで重要な意味を持つ文書となった。×
35. 18 世紀のイギリスの統治の仕組みの下では、依然として国王が現実政治における最大の影響力者の 1 人であったが、他方で、後の内閣や首相にあたる地位が登場し、次第に確立されていった。○
36. 8 世紀半ばにフランク王国でカロリング朝への移行が起こった際には、西ローマ教皇の役割がかなり大きな役割を果たした。○
37. カペー朝による王領の拡大には、14-15 世紀に成立した王位継承と王領不分割に関する王国基本法が大きな役割を果たした。×
38. フランスの三部会では、命令委任による拒否権の仕組みが、多くの難しい決定に対して非常に大きな壁となっていた。○
39. 1589 年に成立したブルボン朝では、それまでの売官制度が廃止され、それに代わって国王親任官の制度が導入された。×
40. アンシャン・レジームの下では、様々な身分や団体が国王との契約によって成立していたが、フランス革命ではそれに代わって個人と自由の原理が提唱された。○
41. 大革命以降のフランスの近代の政治では、民主的原理と議会に重きを置く体制と、むしろそれを否定する権威主義や独裁に近い政治体制とが頻繁に入れ替わるという不安定な状態が長く続いた。○
42. ヨーロッパ中世での封建的な秩序の中では、トップに君臨する国王が実力としての軍事力に加えて宗教的な権威も持っていた。×
43. 1086 年に征服王ウィリアム 1 世の命令によって作成されたドゥームズデー・ブックは、当時の社会に関する極めて詳細な調査の記録であるとともに、征服後の土地保有関係を確定させる意味を持った。○
44. 16-17 世紀のイングランドは、当時のヨーロッパ情勢の中では周辺的な位置にあり、大陸ヨーロッパの権力政治からは基本的に距離があった。○
45. イギリスの歴史の上で、ほとんどの時期に陸軍の常備軍が存在しなかったことは、民主主義や議会の発展という観点から見て重要な意味を持っていた。○
46. フランスにおける近代以前の統治体制の骨格として、王位継承ルールなどを定めた王国の基本法は、男系親相続を定めた 1 つの例と考えられている。○
47. フランスのアンシャン・レジームにおいて、**Pay d'Etat** と呼ばれた地域では、国王の強力な支配が特徴であった。×
48. 近代における国民国家システムと民族自決主義とは密接に関連している。○
49. 17 世紀末から 19 世紀初頭の対ナポレオン戦争に至るまで、イギリスは長い間フランスとの対立関係にあったが、その長期的な争いを勝ち抜く過程で、議会のあり方と対応がフランスの場合とは根本的に異なっていたことは明らかである。○
50. 1688-89 年の名誉革命と、1701 年の王位継承法の成立によって、イギリスにおいて立憲王政が成立したと考えられている。○